令和 4 年 10 月 10 日 78(4-2)

建設防災

ボランティアニュース

第78号

か総合防災訓練

- · 河川愛護月間行事
- 徒歩点検
- 次 ・ 寄稿 創立 100 周年を迎えて
 - 新会員からの報告

令和 4 年度総合防災訓練

品川区内の2箇所、2日間で奮闘

令和4年度東京都・品川区合同総合防災訓練が、9月3日(土)、4日(日)の両日、3日は「林試の森公園」と「小山台小学校」、4日は「西大井広場公園」と「しながわ中央公園」の4会場に分かれて行われました。

本訓練は、東日本大震災を踏まえ策定した被害想定を10年ぶりに見直した「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」(令和4年5月)に基づき、想定される最大規模の被害を設定したものとなりました。統一テーマは「狭溢地区を有する地元の地域特性を踏まえた訓練の実施による防災力の向上と、近年防災分野においても発展が進んでいるデジタル化(防災DX)を取り入れた訓練の実施」です。

協会では、局からの依頼を受け、3日、4日 西大井広場公園で行われた道路啓開訓練に二 建班の3名(以下敬称略。古川、高尾、鈴木 (秀))、3日林試の森公園で行われた展示・体 験訓練に東部公園班及び応援参加の三建班の 2名(細川、島津)、が訓練に参加いたしまし た。特に、二建班は3日のリハーサルと4日の 本番の2日にわたり活動を行うことになり、た いへんお疲れさまでした。

3日の林試の森公園では、パネル展示、水防 災総合情報システム及び東京都水防チャンネ ルの紹介、荏原調節地バーチャル施設体験が行 われ、参加者には、来場者への資料の配布や VR 体験時の補助をする役割が与えられました。当 日は、天候にも恵まれ、たくさんの方が訪れま した。特にバーチャル施設体験は、普段見られない河川施設の内部の360°映像が見られるとあって、小さなお子さんから若い女性、年配の男性まで幅広い年代に人気で、VRゴーグルを装着し熱心に職員の説明を聞きながらぐるりと周囲を見渡して驚いている姿が印象的でした。

担当理事 川合康文

綿密な準備! 道路啓開訓練・・・二建班

東京都・品川区合同総合防災訓練の道路啓開 訓練に、二建班から古川俊明さん、鈴木秀一さん、 高尾の3名が参加しました。

訓練会場の西大井公園は、令和 2 年度に訓練が行われた北区中央公園の 5 分の 1、元年度の多摩中央公園の 10 分の 1 の面積しかない狭い公園で、ここで都建設局など 12 の機関が救出救助訓練を行うとのことでした。

- 8月29日に二建で説明会があり、発災直後に ガレキなどで閉塞した道路の状況を調査し、道路 巡回車で到着した工区点検班に報告するという 役割が示されました。
- 9月1日に二建のみのリハーサルが行われ、段取りの変更などの指示を受けました。
- 9月3日に西大井公園で全機関参加のリハーサルが行われました。午前8時に今宮所長の訓示を受け、午前11時に発災したとして道路点検に出動しました。点検箇所の直近で消防の初期消火訓練の火が焚かれているなど、他の機関との輻輳があり、午後1時に段取りの変更の指示を受けました。
 - 9月4日の本番では、来賓席の真正面の道路

の閉塞箇所で、閉塞延長の計測などの調査を行っている時にアナウンスで活動を紹介して頂くなどしながら、段取りとおり調査と報告を終えました。 午後 0 時に中島都技監と今宮所長の訓示を受け訓練が終了しました。



今回は会場の狭さから綿密な準備が必要だったようで、二建からは1週間に4日間の招集がかかりました。それぞれ仕事の予定を変えるなどして対応したものの、誰一人、全ての予定に対応できなかったことは、今後の課題と思います。

二建班 高尾弘幸

初めて参加! 展示体験訓練

都立林試の森公園を会場として、9月3日、令和4年度東京都・品川区総合防災訓練が行われた。私は、建設防災ボランティア東部公園班の一員として、都民の防災意識の向上を目指す参加・体験型訓練に参加した。

今年は、品川区が開催都市であり、西部公園に勤務する私は出番がなく、防災ボランティアの立場で、防災訓練に参加した。ヘルメットも新たに支給され、協会の防災被服に身を固め、初めてのボランティア活動となった。

会場では、河川部・2建の展示ブースで、島津哲也さんとともに目黒川荏原地下調節池施設のVR体験の補助業務に従事した。VR装置を装着し、調節地施設の3次元空間を自由にバーチャル体験するものである。会場全体はコロナ対策のため300人の入場制限があり、混雑することはなかったが、20数名の方がVR体験を行った。小学校

低学年の生徒から大人まで、仮想空間を体験し、 楽しんでいただいた。中には15分以上装置を独 占する人、目が回って気持ち悪くなる人もいた。



令和5年度の開催都市である東村山市渡部尚市長が来場し、声掛けしたところ気軽に VR 体験をしていただいた。そのため、市長のスケジュールが大幅に遅れたようである。局関係では、浅野総務部長が来場し、道管、東部公園、公園協会の各展示ブースを熱心に視察していた。

初めて現場活動ができ、また、来年もという気になったが、来年は、異動が無ければ西部公園の立場で参加することになり、残念である。

東部公園班 細川卓巳



河川愛護月間行事

シンポジウムに2年連続当選!!

7月28日、昨年同様、一般都民募集の抽選に 当たったので、河川愛護月間関連行事の一つで ある『東京の川を考えるシンポジウム 2022~未来 へつなごう東京の川~』に参加しました。

開演冒頭、小池知事がオンラインによる主催者 挨拶。昨年までは、確か建設局長だったような気 がしますが、知事の思いれがあったのかなと思い ました。

講演は、東京大学大学院工学研究科教授 沖 大幹氏が「気候変動が河川に及ぼす影響」と題して、気象予報士・キャスターの井田寛子氏が「近 年の気象災害と気候変動」と題して行われ、続い て塚田河川部計画課長が東京都の河川事業の 取り組みを紹介し、最後に、中島東京都技監の閉 会あいさつで終了しました。



沖氏は、温暖化については専門家も昔は懐疑的であったが、IPCC 第6次評価報告書では、「人間活動の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が表れている。」と評価されたとし、温暖化による影響等について、CO2 濃度が倍増したら気温分布がどうなるかなど様々なデータをもとに分かり易く説明され、さらなる河川対策等の必要性を認識しました。

井田氏は、気候変動に伴い猛暑日や激しい雨も増加している中で、気象予報士として気象情報はもとより、避難情報や河川洪水情報などを適切に伝えていかなければならないとしています。また、井田氏が出演した NHK の「2050 年の天気予報」では、スーパー台風や高潮の発生、紅葉が冬になるなど季節感が変わってしまうなどの状況になると予想されいるため、自然エネルギーの活用などの対策を積極的に進めていくことが必要であると改めて認識した。

塚田課長は「近年の降雨状況の変化、土砂災害対策、中小河川の洪水対策、低地河川の高潮・地震対策、河川環境の保全・整備、河川のソフト対策」などの取り組みを説明するとともに令和4,5年度にかけて「気候変動を踏まえた河川施設のあり方」について検討し、最終報告書としてまとめていくとしています。

コロナ対策の関係で人数は制限されていました

が、都民の方々でホールいっぱいとなり、また熱心に聴講されている様子で、盛況であったと思います。

今年も、様々な河川愛護月間関連行事が中止されている中で、本シンポジウムは開催されましたが、来年は、すべての行事が行われるよう期待するとともに、会員の皆さまが積極的に、そして大いに参加できるようになればと思います。

三建班 望月 裕

コロナ禍の中の徒歩点検

コロナ禍で規模は縮小されたものの、前期道路 施設等点検が6月10日から8月10日の2カ月間で実施されました。参加者数等については次 号に掲載しますが、2つの報告が届きましたので 掲載します。参加された会員に感謝します。

担当理事 川合康文

南東建班 ・・・ 鶯の囀りに癒される!

7月27日 南東建ボランティア(以下敬称略。参加者は武内、織田、原田、杉本、矢内、丸岡、佐々木、若尾、柴田の以上9名)は、南東建・事務所さんのご協力のもと、鶴川街道の約4km区間(栗谷交差点~中町交番前交差点)の徒歩点検活動を実施しました。この活動については当初7月6日に予定していましたが台風4号の接近に伴い、27日に延期して行いました。当日は前日までのぐずついた雨模様と打って変わり朝から晴天で、暑さ厳しい中での活動となりました。

今回、ボランティアの皆様は、先ず午前8時45 分に南東建事務所に集合し同所の小池補修課 長、中曽根統括代理等と挨拶した後、早々に同 所の中曽根統括代理による手作りの梅、梅水ジュ ースをいただきボランティアの皆様も気合が入りま した。出発前に園尾所長はじめ小野寺副所長及 び島野尾根幹線整備担当課長さんから丁重なる ご挨拶を受けた後、9時過ぎに所のバスにて徒歩 点検の出発地点現場に向かいました。 途中、町田市本町田付近(日向交差点付近)では安全施設事業が所関係者のご尽力によりかなりの進捗となっており取り付け市道も完成し、残るは本線部の整備改修が楽しみな状況をみることができました。その後、9時15分頃、現場に到着し、R班(防災ボランティア:織田、杉本、原田、佐々木、若尾。所:中曽根統括代理、井上主事の以上7名)とL班(武内、丸岡、矢内、柴田。所:小池課長、大西主任の以上6名)の2班構成により鶴川街道を右側歩道、左側歩道に分かれて点検しました。

途中、竹藪を背負った法面箇所では鶯のさわ やかな囀りに一瞬癒され、また沿道の大きな遊水 地では大きな鯉(?)らしき魚が何匹も元気に泳ぐ 様に暑さも吹き飛びました。そして点検開始から 45 分位経過後、沿道コンビニ駐車場において熱 中症予防策として休憩をとりました。若尾副リーダ ーによる差し入れアイスキャンデーを食しお蔭様 で清涼感に浸ることができました。



この休憩で元気を取り戻し活動再開となりました。その後、日向交差点経て鎌倉街道との交差点(菅原神社前)まで来ると、2度目の休憩を所のバス内でとり一息入れた後、最後の区間である現道(未整備)区間についてR班、L班が一体で実施し11時20分頃、終点である町田街道との交差点(本町3丁目交番前)に無事到着し点検終了となりました。(点検結果は所関係者の日頃のご努力により若干の指摘のみ)

その後、所に戻り会議室おいて着替え等を行い、最後に所の小池課長さん、中曽根統括代理 さん等にご挨拶後、帰路につきました。帰路の途 中、有志 8 人で某所にて恒例の昼食懇親会を開催しました。リーダーの発声で乾杯した後、会員相互の交流促進を行い、最後に副リーダーの締めで、次回の英気確認をし、散会となりました。本日の活動実施に当たり、南東建の所長、副所長はじめ補修課長や関係職員の皆様にご高配、ご支援を賜り深く感謝申し上げます。併せて、ご参加頂いた会員の皆様大変お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢二

四建班 ・・・ 初めての徒歩点検

温 30℃、湿度 56%、熱中症危険度 警戒情報。 四建点検班14班のうち第8班は、加藤さん(エニ)、戸塚さん(管理)、石井さん(工区)、服部さん(補修)、東(OB)の 5 人で編成され、皆さん徒歩点検の経験があり、色々な視点でチェックできそうです。点検個所は、環七通り、羽沢歩道橋か

6月21日(火)13:00現地集合。天気曇り、気

コロナ禍も落ち着き、久しぶりの徒歩点検、四建としては、防災ボランティアが参加する点検は第8班が初陣でした。

ら東武東上線アンダーパス部に隣接する常盤台

歩道橋までの約2.5kmです。

加藤リーダーから概要説明があり、内回りから外回りのコースを確認し、点検を開始しました。羽沢歩道橋下の植え込みにて、いきなり材木少々、スコップ1本を発見。工事用トラックからの落下物と想定。歩行者通行には、支障ありませんでした。引き続き、点検を進め、要町通り、川越街道を横断し、折り返し地点の東武鉄道高架橋に到着しました。概ね50分を要し、その間、放置自転車2台を発見しました。

東武鉄道高架橋擁壁部では、雑草が刈込まれていましたが、工区の石井さんに尋ねると、自転車による巡回点検にて伐採を行ったとの説明を受け、日常の適正管理を垣間見ることができました。

また、最近の管理実態として、水溜りの苦情が 多いとのことでした。インターロッキングの沈下に よる原因など、小規模な箇所は直営で補修し、大 規模になるとメンテ業者への補修依頼により、ワンストップサービスによる即決処理を図っているとのことでした。

暫しの休憩の後、復路となる外回りの点検を開始しました。

外回りでは、放置自転車2台、歩道に置かれた 消火器1か所(練馬区への注意喚起)、その他、 植樹帯ブロックの浮き上がりが発見されました。消 火器は通行の妨げとなり、段差は、乗り上げによ る歩行者・自転車の転倒の危険性を感じました。

点検中、局の主要事業である無電柱化事業の施工箇所も散見され、完成区間におけるインターロッキング舗装の素晴らしさに感銘を受けました。

その他、春季剪定による整然とした中木、低木により、新緑とも相まって道路景観の美しさが感じられました。高木については、冬季剪定により強めに枝を刈込んだことにより、繁茂状態が丁度良い状態にあり、真夏に向けての緑陰効果が期待できると思えました。

環七通りは幹線道路であり、相変わらずの交通 量の多さを実感しました。沿道には、マンションや 小規模事業所が多く、点検中にも歩行者、自転 車と頻繁に遭遇しました。

今後も、都民の要望・対応に適切に応え、引き続き、適正管理に取り組んで行かれることを期待しております。

最後に、羽沢歩道橋下にて全員で写真撮影を 行い、無事、徒歩点検を終了したことを確認し、 業務を終えました。



四建班 東 了一

寄稿

創立 100 周年を迎えて!!

東京都土木技術支援・人材育成センターは、 令和4年(2022)4月4日に創立100周年を迎えました。これを記念し令和4年4月創立100周年誌を発刊いたしました。厳密には戦中戦後に廃止された期間があるため100年間継続したことにはなりませんが、大正11年(1922)4月4日に東京市道路局試験所として設立されたときを起点にして100周年としています。

当所の前身は、東京市道路局試験所であり、 その後、東京市土木局道路課試験所、東京市土 木局土木試験所、東京市土木技術研究所、東京 都土木技術研究所、東京都土木技術センター、 東京都土木技術支援・人材育成センターと 100 年間で 6 回も名称が変更されています。また、移 転や廃止があったため所在地も変わりました。



図1 所在地の変遷

東京市道路局試験所は道路舗装のための試験所でした。現在ではアスファルトの舗装が当り前になっていますが、当所が設立される前の頃は砂利道ばかりでした。『東京市道路誌(昭和14年東京市)』にはその頃の道路の様子について、少し風が吹けば砂埃が舞い上がり、雨が降れば泥田のようになることや、当時「へどろかき」という泥土を雪掻きと同じように掻き集めて樽に入れて搬

出するといったことが記述されています。

試験所が設立されるまでの経緯は、同書によると、大正7年(1918)に来日したアメリカのサミユール・ヒルが大日本国防議会で「国防と道路」と題して講演を行った際、日本には道路改良に関する専門の会合機関がないことを指摘し、大正8年(1919)に道路改良會が創設されました。道路改良のことが皇室の知るところとなり、大正9年(1920)御内帑金300万円を東京市へ御下賜され、これがきっかけとなって東京市会が総額4,000万円の路面改良事業を議決しました。

東京市は大正 9 年(1920)に道路局を新設し、 不良道路を一掃するため、大正 11 年(1922)に 第 1 期路面改良計画が実行に入りました。しかし、 舗装用の材料は特殊な理化学試験が必要であり、 技術的経験に乏しかったため、大正 11 年(1922) 4 月に道路局内に試験所を設置しました。

この試験所が当所の前身です。翌大正 12 年 (1923)の関東大震災では分室が焼失しましたが間借りの本庁舎は無事でした。戦前には当所での舗装用のアスファルト乳剤に関する発明があり、直営でのアスファルト乳剤製造も行っていました。



写真 1 昭和 3 年の東京市土木局道路課試験所全景と職員 (現在の港区芝浦 3 丁目)

出典:「アスファルト回顧録 (その1) 岸 文雄 昭和 40年6月アスファルト 第8巻 第44号 日本アスファルト協会」

昭和 15 年度には地盤沈下調査を引継ぎましたが、戦時中の昭和 20 年(1945)には土木技術研究所が廃止となる憂き目にも遭遇し、庁舎も空襲で焼失しています。

戦後になって試験研究機関の必要性から昭和 23 年(1948)に再発足し、その後道路舗装の試 験研究と地盤沈下調査の業務に加えて、東京の地質構造や地下水の研究、土木材料の試験・研究、河川や防災に関する研究、公共基準点の整備・管理など、インフラに関する諸課題の解決や事業の推進に向けて様々な調査研究を実施してきました。



写真 2 昭和 39 年頃の東京都土木技術研究所全景 (現在の港区港南1丁目)

平成18年(2006)には東京都土木技術研究所が再び廃止され研究業務がなくなりましたが、現在の東京都土木技術支援・人材育成センターでは、土木技術に関する「技術支援」と技術職員の「人材育成」を基幹業務の2本柱として、①現場の技術支援、②調査・開発、③技術情報の蓄積・提供、④土木技術情報ライブラリー、⑤技術研修、⑥技術継承の6つの取組を実施しています。当所は貴重な技術情報の蓄積があり、その提供を行うとともに、土木技術者の育成や技術継承などにも取り組んでいます。



写真3 現在の東京都土木技術支援・人材育成センター全景

最後にお願いになりますが、歴史的に貴重な写真や保存すべき過去の資料等をお持ちで、当所に譲渡して頂ける方がいらっしゃいましたら、ご連絡(03-5683-1521)を頂ければ幸いです。

今後とも東京都土木技術支援・人材育成センターへのご協力、ご指導を賜るようよろしくお願い申し上げます。

土木技術支援・人材育成センター所長 岡村 浩志

新会員からの報告

志願します!!・・・ 四建班 島津哲也



昨年夏より、入会させていただきました島津です。最終職場は「二建」で、住まいはその管内の世田谷ではありましたが、『いざ参集!』となった際、現実的になんとか辿り着けるであろう(概ね

6.5 キロ位?)「三建班」に入れていただくこととしました。 改めまして、よろしくお願い申し上げます。

「三建」は、入都最初の配属職場で6年間在籍。 都庁人生の礎を築いていただいた思い入れのある事務所、まさにホームベースです。

コロナが一段落した6月の「道路施設点検」や、お盆前、所長や副所長ともご一緒させていただいた「バリフリ点検」では、担当の方との顔合わせ、事務所の近況を伺ったり、懐かしい顔との再会があったり。都庁を離れた後も、こうしたご縁をいただいたことに、感謝です。有事参集の際には、遠慮なくご下命いただければ、と思います。

さて先日、「東京の川を考えるシンポジウム」を 聴講してきました。テーマは「気候変動が河川に もたらす影響」。都知事自らが開会挨拶されるほ ど、水災害リスクの高まりは、都政にとっても最重 要課題。

連日のように各地での記録的な猛暑、降雨の報道が続いていますが、私自身も、7月19日京都訪問中に、当地の観測史上最大となる時間88ミリの降雨に遭遇。叩きつける雨に、ただ立ち尽くすしかないといった状況を経験。「気候変動」(による様々な影響)が、「今そこにある危機」として身近に迫っていることを実感します。

協会の支援業務について、水災害に於いても、何かお手伝いできることはないか、研究を始めたほうが良いかなぁと考えたりもします。高齢者集団でありますので、対応可能な作業は限られますが、発災後は、何かとマンパワーが必要な場面ってありますもんね。

何かあれば「volunteer! 志願します!!」 最後に私事を少し。2 年半程お休みしていた



sailing を再開。久しぶりに江の島まで。素晴らしい夕日に出会えたので、パシャ!っと、その姿を友人がカシャリ!

『背中から腰の脱力感、膝も少し曲がり気味。あ一あ、歳取っちゃったな…』自らの後姿に、加齢

再認識の今日この頃ですが、素敵な景色と旨い 肴を求めて各地を探訪。もう直ぐ 64 歳。ボチボチ、 元気にやってま~す!

気持ちも新たに ・・・ 一建班 原島孝至



今年度から当協会に入会させ ていただきました原島です。

今年3月に道路建設部を最後 に定年退職し、4月から東武鉄 道㈱に勤めております。

私は、道建勤務が大半でした

が、建設事務所在職時には、当協会の皆様には 初動対応訓練や道路施設点検等、ご協力いただ き大変お世話になりました。

今後は、会員として、いつ来てもおかしくは ない首都直下地震等の災害に備え、気持ちを新 たにして微力ながら少しでもお役に立てるよ う努めてまいります。

当協会には公私にわたりお世話になりました諸先輩方も多く心強く思っております。

参集の配属は、一建班となりましたので、引き続き、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

落ち着いたら・・・ 北北建班 小川和雄

令和2年3月に北北建工事二課を最後に東京都を退職した、小川和雄です。

その後2年間の東京都公園協会勤務を経て、 この4月に西武建設に入社し、現在東長崎にある



東京支店に勤務しております。 入社直後にお声がけを頂き、この度建設防災ボランティア協会 (北北建班)に入会させて頂きま した。どうぞよろしくお願い申し上 げます。

私が都を退職する頃から緊急事態宣言が発出されるなどコロナ禍に突入し、公園協会在任中もなにかと制約の多い 2 年間でした。昨夏はオリンピックも開催され、一旦は正常化の兆しも見えてきたところですが、今夏の第7波によって感染者数も過去最多を更新するなど、様々な活動に対する制約が解除されるには至らない状況が続いております。

自分の年齢も考え合わせると、もうしばらくは隠忍自重の生活が続きますが、コロナが落ち着きましたら協会の活動に少しでも寄与できるよう努める所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

地域に貢献したい ・・・ 五建班 清水幸一



この度、東京都建設防災ボランティア協会に入会させていただきました清水と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。都在職時は、河川の業務に携わっておりましたので、台風や集中豪雨

等による警報発令時には水防活動を、また、河川 愛護月間では川を歩こうなどにおいて、都民との 関わりを大切にしておりました。

昨年まで在籍した公園協会では、防災担当として防災公園の防災施設運用訓練や夜間参集訓練等を協会全体で実施し、震災対応力の向上を図ってきました。

首都直下地震や、気候変動の影響による大雨や大型台風により大規模な土砂災害が発生した場合は、五建班の防災ボランティアとして、また、砂防ボランティアとして東京都の応急復旧業務の支援を行い、被災地域への救援活動等を図って、地域に貢献したいと思っております。災害のない

ことを祈りつつ、被害が発生し要請があった場合は、精一杯貢献したと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

新会員の紹介

ご報告いただいた会員に加え下記の方々が入 会されました。編集の手違いで前号にご紹介でき なかった会員にお詫びしつつ、皆さんよろしくお 願いいたします。

奥秋聡克さん(北北建班) 伊佐賢一さん(西建班) 大八木猛さん(南西建班) 小川和雄さん(北北建班)

協会からのお知らせ

- ① 活動報告ばかりでなく、会員個々のボランティア活動の報告も掲載したいと思います。ぜ ひ編集担当理事まで連絡願います。
- ② 協会の H.P に最新の情報、ニュースのバック ナンバー、建設局報等が載っています。併せ てご覧ください。(http://tokyo-adv2.info/)

編集後記

新年号以来ようやく2号目の発行です。新型コロナの感染も収束に向かい、今度こそ活動再開との期待も膨らみます。 新会員の皆様も腕を撫して活動再開を待っておられるかと 思います。ぜひ多くの活動に参加し、第3号、第4号の記 事の執筆を期待しています。(MH)

発行人 山口 明

発 行 東京都建設防災ボランティア協会 新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 20F (公財)東京都道路整備保全公社内

編 集 加藤基雄、佐野正生、高橋紀男、林幹生

